



VOICE ~大会を支える皆さまの声~



国民文化祭開催に向けて ~ご当地ヒーロー文化祭~

にかほ市では鳥海山伝承芸能の祭典と奥の細道全国俳句大会と並び、ご当地ヒーロー文化祭が行われます。

今から約10年前、地元色豊かなヒーローを生み出し、地域を楽しくしたいという本気とも冗談ともつかないアイデアをもとに、高橋大氏はじめ地元の有志を募り始めた活動が、まさか全国に広がり各地域にご当地ヒーローが次々と誕生するという、新たな文化を生み出すきっかけになるとは思いもよらなかった事です。これは、にかほ市という自然環境が豊かな地域で誕生したからこそその現象なのでしょう。

そのにかほ市を舞台に全国からヒーロー達が集合します。今から子供達が目を輝かせながら声援を送る光景が浮かんでいきます。

ご当地ヒーロー文化祭 企画委員長 海老名 保さん

史跡に学ぶおもてなし

いよいよ国民文化祭・あきた2014の幕開けです。

奥の細道全国俳句大会では、象潟・九十九島の吟行に思いを馳せ、蛸満寺で呈茶席を設けます。主役のお菓子は、小林一茶の小舟が行き交う九十九島の句から「刈穂船」を引用いたしました。さらに、象潟より松島に嫁ぎ、女性の鑑と慕われた紅蓮尼ゆかりの「松島こうれん」を用います。



鳥海山伝承芸能の祭典では、霊峰鳥海に舞う「小滝のチョウクライロ舞」会場に呈茶席を設けます。お菓子は、中国で茶を体験した慈覚大師・円仁に伝わる、霊峰鳥海山奉納の「饅頭」を使用します。

史跡に学ぶお菓子をおもてなしの主役に、心をこめて皆様をお迎えしたいと思っております。

おもてなし委員会
企画委員長 高橋 恵美子 さん

この方々の他に、キャンドルコンサートを象潟海水浴場で開催した象潟地区地域振興協議会（6月発足）が婦人会やボランティアと協力し、国民文化祭応援の一つとして、象潟を訪れる皆さんを歓迎するために駅前及び国民文化祭の会場周辺に花を飾ってくださいます。

修験の心を舞う

「鳥海山伝承芸能の祭典」は、10月11日、12日の両日象潟体育館と金峰神社境内を会場にして、全国各地の民俗芸能が集い「幽玄の世界」が繰り広げられます。

鳥海山の麓には、永々として伝えられてきた神楽や番楽など数多くの文化があります。

これは気の遠くなるような長い時を経て、土地の生活の中に溶け込み、人々の身体の奥底に染み付いた貴重な文化です。国文祭を通してこれらの芸能が培われた背景や、その文化も同時にご鑑賞いただき、それが確かな形で守り伝えられていることを実感して頂ければ幸いです。この祭典を一過性のマツリゴトに終わらせず、後継者育成はもとより、地域の人々の心と心をつなぐ伝統文化継承の新しいエネルギーにしたいと考えています。

観光で売り込みたいということではありません。大勢の方々から応援をいただくことで、より熱の入った稽古が出来、保存伝承に力が入る気がするのです。

鳥海山伝承芸能の祭典 企画委員長 吉川 栄一さん



おくのほそ道「象潟」で芭蕉の思いを感じてもらいたい

私が俳句を始めたのは、教員だった昭和45年、校長先生に誘われたのがきっかけです。それから病み付きになってもう40年以上になります。

「鳥海山のたいなる風豊の秋」-最近の句です。人との出会い、自然との出会いの中から、心の動き（喜怒哀楽）を作品にしていきたいと思っています。

図らずも、このたび国民文化祭「奥の細道全国俳句大会」の企画委員長を拝命し、関係者の方々と力を合わせて準備を進めてまいりました。4月から6月に募集した「事前投句」には、一般の部6,604句、学生の部10,506句もの応募がありました。

松尾芭蕉が来た往時と風景は変わっておりますが、おくのほそ道紀行の景勝地「象潟」を前面に出して、全国の方々からお出でいただき、芭蕉の思いを感じてもらいたい。祭りですから市民の皆さんとともに盛大に楽しみたいと思います。

奥の細道全国俳句大会
企画委員長 宮本 秀峰さん

